

## 第6回東京都人権施策に関する専門家会議議事概要

開催日時：平成31年2月8日（金） 15時30分～17時30分

開催場所：東京都庁第二本庁舎31階特別会議室25

《出席》 戸松秀典座長、江上千恵子副座長、大江近委員、後藤千恵委員、  
菱山謙二委員、本澤巳代子委員、山脇啓造委員（以上7名）

《欠席》 石渡和実委員、佐藤佳弘委員、鶴田幸恵委員（以上3名）

### （1）議題「東京都における人権施策について」

- ・ 前回会議（第5回）の意見についての対応の報告
- ・ 人権啓発の取組について（平成30年度）
- ・ ヒューマンライツ・フェスタ東京2018実施報告
- ・ 平成30年度（公財）東京都人権啓発センターの主な実施（予定）事業
- ・ 平成30年度アイヌ伝統文化発信事業報告
- ・ 平成30年度に開始した相談事業説明
- ・ 「東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」説明

・ 質疑・意見

※東京都における人権施策についての説明・報告や、開催1年前となった東京2020大会を契機に、新条例を制定したことを踏まえ、都民の人権尊重の意識を高めていくためにはどのように啓発していくことが効果的か、人権尊重の理念を広く都民に浸透させていくためにはどのような手法・方策があるかなどについて、意見、質問など、幅広く意見交換を行った。

### 【委員からの主な意見】

- ・ 学校教育の場면을十分に活用すべき。明日、明後日に効果のあるものということであれば、学校教育、各地域の自治体等を通してきちんとやっていく。もう一つは自治会、町内会の短期的な利用である。
- ・ 今現在の学校の情報として、新しい学習指導要領が始まる。その中で、今の子供たちが未来を幸せに安全に生き続けられるという持続可能社会を作るためには、何が課題かを考えて、どのような対策が必要だろうかという学習は既に始まっている。その中に環境問題や戦争などがあるが、人権問題もそのような取り扱いで、いろいろな差別問題、人権問題を、幸せに生き続けられる持続可能な社会という観点から、取組が始まっている。
- ・ 先ほどの人権尊重の理念の実現の部分の説明で、教員の認識が大事だと話があったが、自分も同感である。「みんなの人権」の冊子は、非常に見やすくよくできているので、この冊子が全教員に行きわたるようにしてもらえば、校長会を通して人権を扱うという話を繰り返し行っていきたいと思っている。

- ・ 英語で言うヘイトスピーチは、アメリカ、ヨーロッパで捉えられている概念は日本とは違う。法律を作ったが、あれはヘイトスピーチを対象としていないと捉えるべきではないかと思う。概念の問題で、理念、概念をどのように捉えるかということがこの領域の重要なことで、日本では気軽にヘイトスピーチ対策をしているなどと言っても、アメリカやヨーロッパの人からしてみれば、何もやっていないではないかと言われても仕方がない状況である。
- ・ 「みんなの人権」について、東京都としては人権施策推進指針と今回の新条例が2つの柱になるのではないか。人権指針はこんなことが目玉だとか重点プロジェクトであるとか、条例はこういったことを規定しているとか、もう少しアピールして書いてもいいのではないか。中身がわかりにくい。
- ・ 新条例には「不当な差別的言動」と書いてあるが、通常の議論ではヘイトスピーチと言っている。不当な差別的言動のことを「ヘイトスピーチ」と言い換えて言っているのか。国は「ヘイトスピーチ」という言葉は使っていないはず。
- ・ 基準がどうなるのか。安全管理が害されたら、別の法律で十分対応可能ということにもなる。
- ・ 表現の自由への関連の中で2項目を入れざるを得なかったのではないか。表現の自由とヘイトスピーチをどう考えるか。
- ・ 「みんなの人権」に無国籍のことが記載されているが、子供に関してはこういう形での無国籍でない無国籍もいる。2行ぐらいで済ませるようなものではない。
- ・ 外国人が増えてくると、国籍問題など私たちの概念では理解できないような事態が発生してくる。そのような場合の相談窓口、対応について東京都全体としての考えを聞きたい。
- ・ 都民の人権尊重の意識を高めるためには、今できる、小さなジョブをどんどん打っていくしかないと思う。
- ・ 人権について特に子供たちや若い人たちに考えてもらいたいが、基本的に受け身で教えられるものである限り、本気で考えるようにはならない。自分が何らかのかたちで能動的に関わる機会をいかに作り出せるかが勝負。
- ・ 人権をテーマにした俳句大会の企画やディベート選手権の開催など。人権のことを自分から考え出すだろう。
- ・ 東京都でいろいろな賞を作ってはどうか。
- ・ 実現可能性が少ないとは思いますが、都立学校の入試問題に人権問題に関することを出してはどうか。入学試験の問題に出た途端にそれについて勉強し始めるという傾向が日本社会にある。
- ・ 今は大企業や経団連などがSDG s、SDG sと言っており、これはチャンスである。2020年を機に、ということと、持続可能性ということが言われている中で、企業とうまく組めることがないか。専門にしているところではない多様な団体が組むことで、新しい課題解決策が生まれてくる時代になっているので、そのような一步を踏み出してはどうか。
- ・ ウタリ民族の文化について、模様や文様などに関わる絵本のようなものは作れないか。デザインを現代的なものにどうアレンジしていけるのか。
- ・ ムックリの演奏を聴く機会があれば良い。いろいろな音楽、映像などを合わせた総合的な仕組みを作れないか。